

故 妻木 律子（つまき りっこ）

〔洋舞（現代舞踊）〕

昭和 31(1956)年 5 月 21 日生

令和 7 (2025)年 3 月 28 日逝去（没年 68 歳）

宇都宮市在住（当時）

氏は、大学在学中に正田千鶴氏に師事し、文化庁派遣在外研修員として海外に渡るなど研鑽を積まれ、社団法人現代舞踊協会（現・一般社団法人現代舞踊協会）ベストダンサー賞をはじめ、数々の賞を受賞されるなど、高い評価を受けています。

氏が設立した「ダンスセンターセレニテ」において後進の育成に取り組まれたほか、栃木県文化協会や宇都宮市文化協会、一般社団法人現代舞踊協会等の団体においても理事等の役職を務められ、県芸術祭や宇都宮市芸術祭での洋舞公演に尽力されるなど、令和 7 (2025)年 3 月に急性骨髄性白血病により逝去されるまで、長年にわたり洋舞を通じた地域文化の発展に注力されました。

氏は、平成 7 (1995)年に開催された「国民文化祭とちぎ'95」や平成 23 (2011)年に開催された「スポレク “エコとちぎ” 2011」においてオープニング演出等の振り付けを担当されるなど、県を挙げた大規模イベントの成功にも貢献されています。

また、宇都宮市文化協会が主催する「ふれあい文化教室」をはじめ、保育園や小学校での子どもたちへの指導や、「もうひとつの美術館」等でのワークショップ等により、広く次世代の育成とダンスの普及に努められるとともに、大谷石蔵を再生したアートスペース「be off」を設置し、ダンス公演にとどまらず、演劇、音楽、映像等、多分野が交差する発信拠点として活用することで、洋舞の分野にとどまらない文化・芸術の振興や地域の活性化にも寄与されました。